

実践④ 鹿児島県立吹上高等学校

1 はじめに

本校は日置市吹上町にあり、大正13年創立、平成27年に90周年を迎えた歴史と伝統のある学校です。西には日本三大砂丘の一つである吹上浜、南には南薩の霊峰金峰山を眺め、目の前にはさつま湖を見下ろす高台に位置する、風光明媚な地にあります。

設置学科は、電気、電子機械、情報処理の3学科で、それぞれ各学年1クラスずつあり、現在347人の生徒が在籍しています。本稿では、本校の読書推進の活動とその成果について報告いたします。

2 活動の実際

(1) 読書をする環境作り

- 利用者が利用しやすく、居心地が良い空間作りに努める。
 - ア テーマ展示や季節展示等
 - イ ルールをしっかりと守らせる
 - ウ おすすめの本コーナーなどの設置等



【本棚が見やすいようになっています】



【映画化・ドラマ化された作品のコーナーです】

「本を読ませようでなく、まず図書館に来てもらおう」ということを大切にしています。来てもらうことによって、本に触れるきっかけが生まれたり、人と話すきっかけができたりしてくれれば良いと考えています。また、「図書館においては、担当職員（司書等）の指示に従わなくてはならない。」という遵守事項を設けることで、だれもが安心して利用できるようにしています。

(2) 図書委員の活動

① 文化祭展示・舞台発表参加



【展示の様子です】

展示部門と舞台部門に参加をしています。展示部門は図書だより等で「おすすめ本の手作りPOP」作りを呼びかけ、図書委員と一緒に作成してもらい展示しました。併せて、「読み聞かせボランティア」の活動風景も展示しました。舞台部門では、書画カメラとプロジェクターを使い、絵本の読み聞かせを行いました。多くの生徒が興味を持って見てくれました。

② 読書週間の紙芝居・読み聞かせボランティア



【紙芝居の様子です】

読書週間期間中には、図書委員が各クラスで「紙芝居」実演も行いました。読む方も楽しそうですが、聞く方も楽しんで聞いています。また、年3回(6月・10月・1月)3班に分け、日置市立ふきあげ図書館内おはなしのへやで、「読み聞かせボランティア」に参加しています。図書委員の活動は、委員自身が楽しむだけでなく、その他の生徒たちも楽しんでくれているのではないかと思います。

3 成果について

(1) 生徒たちの様子

年間の一人当たりの貸出冊数が、平成25年度から27年度まで、平均17冊となっています。また、貸出冊数が2年間で300冊を超える生徒もいます。ただ、一番の成果は、昼休み時間など、多くの生徒たちが図書館を利用することで、本に親しむ機会が増えたことだと思います。



【昼休みの様子です】

(2) 「子どもの読書活動優秀実践校・文部科学大臣賞」の受賞



【図書委員の生徒たちです】

多くの先生方、生徒たちの協力があって、「子どもの読書活動優秀実践校・文部科学大臣賞」を受賞いたしました。図書委員は、読み聞かせのために2週間前から練習をする等、一生懸命活動に取り組んでくれました。その他の生徒も、本に興味を持って楽しんでくれています。そのことを評価していただいたのではないかと思います。

4 さいごに

図書館は、本が好きな生徒が集まる場所といった印象があったのですが、今は、「本を好きになるためのきっかけをつくる場所」だと思うようになりました。生徒が皆読書好きというわけではありません。しかし、多くの本に出会って、様々なことを学んで欲しいという気持ちはあります。その願いを叶えてくれるのが、アミューズメント・パークのような楽しい図書館です。これからも「本を読ませようでなく、まず図書館に来てもらおう」という方針の下、図書館が明るく、生徒が集まる場所であり続けられるよう、努力をしていきたいと思っています。